

V 分析のまとめ ～安芸高田市の特徴のある指数～

- ・ 資産老朽化比率が、平均の上端値 50%を超えています。現在進めている公共施設の配置適正化の検討により、利用の少ない老朽化した資産の除去を行っていく必要があります。
- ・ 地方債の償還が進み、経常的収支が増加したため、地方債の償還可能年数が 9.1 年から 8.5 年に改善しています。繰上償還を行うなどして、さらに地方債の償還を進める必要があります。
- ・ 他団体と比べて資産、負債、行政コストともに多い「大きな政府型」「高サービス型」であり、将来負担が大きいという特徴があります。受益者負担の適正化、公共施設の配置適正化について進めていく必要があります。

VI 今後の課題と活用について

本市が採用しております「総務省方式改訂モデル」については、多くの地方公共団体が採用しておりますが、既存の決算統計資料を利用しているため、固定資産の計上額に精緻さを欠くという、仕組み上の欠点があります。

一方で、高度成長期に建設された公共施設等がこれから大量に更新時期を迎えることもあり、保有する資産の状況を正しく把握する必要があること、他団体との比較をすることが必要であることなどから、平成 28 年度決算からは全ての地方公共団体が固定資産台帳を整備し、新たな地方公会計制度に移行することになっております。

平成 27 年度から本格的に新地方公会計制度に移行するための準備を進めてまいりますが、当面は、現行の「総務省方式改訂モデル」での財務分析を行ってまいります。